

翔

百万石蝶会



NO. 83 APRIL 1990

丸 二 上 羽 蝶

食樹を降り蛹化場所を決定するまでのキベリタテハの行動

松 井 正 人

本年6月に卵を確認してから追跡調査しているキベリタテハが、食樹を降り蛹化場所を決定するまで、7時間半にわたってその行動を観察したので報告する。

観察地 及び 日時

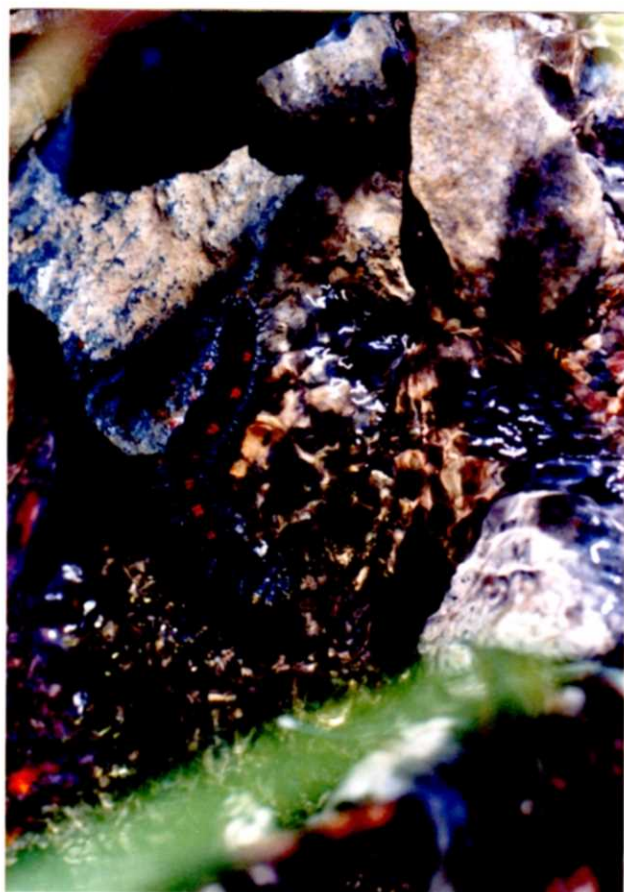
1989年8月20日 9時～16時30分 白峰村白山釈迦林道 気温23度 晴

9:00 ダケカンバに近づくと1頭の幼虫が木を降りてきた。高さ10m程の木はほとんど食べつくされ、まだ10頭程の幼虫がみられる。先の幼虫から1m程はなれてもう1頭が降りてきた。とその時、先の幼虫が地上1m50程からポロっと落ち、根際から南へ向かって歩きだした。

歩きだしていらいまっすぐ南へ向かって歩いている。枯枝上を歩行中に、前(南)へ進めなくなると、たとえば上や左右に進まなければならないと、

腹脚を1対まで浮かし上体をあらゆる方向にふり、何か触れるものがあればそちらに乗り移り、触れるものがなければポロっと落ち、再び南に向かう。また不自然な振動(観察者の動き)が伝わると、幼虫は1～2分はそのままの状態で一切の動きを止めてしまうが、その後はまた元通りの行動に戻る。

南へ進む幼虫は、小さな水の流れにさしかかってもかまわず前進し、口もとが水面に触れたかと思うと口もとを水をなめるかのように横へはわせ、そして後づさった。幼虫は南進を止め、流れに沿って上流へ約2m進み再び徒渉を試みたが、先と同様に水面を少しなめると10cm程引き返し



飛び石伝いに流れを渡る幼虫

た。ところが今度はここで脱糞し、再び徒渉にチャレンジする。水際まで進むと上体を腹脚1対まで浮かし、身体を左右へ振りながら足がかりを探し、飛び石伝いに徒渉を試みるが、2、3個渡った所でどうしても進めず(写真)、同じ経路で元に戻る。再び上流へ向い、4 m程進んだ所で再度徒渉にチャレンジするが、飛び石もなく全く動きがとれない。再び上流へ向かうが、この時点で南進をあきらめたらしく、以後は南進できるにもかかわらず、上流方向(東)へひたすら向った。

11:00 石とか枯枝とか少しでも高い所へ登ろうとするが、最も高い所に達すると降りてくる。ためしに幼虫の行く手に1 m程の枯枝を立ててみたところ、幼虫は最も高い所を通り過ぎ、反対側に降りてきた。この時、枯枝上で吐糸されたと思われる糸が幼虫の後にたなびいているのを観察する。

12:00 50cm程の湿地を渡り、草地に入る。入るとすぐ草に登り始め、それ以上登れなくなると降りてくる。すぐ別の草に登りまた降りてくる。そのうちまた同じ所を登ったりしながら、1 m²の範囲内を上へ下へとウロウロしている。この時も吐糸しながら歩いているのを観察する。

13:35 ススキに登っていた幼虫は、地上1 m位の葉裏に台座を作り始める。ある程度吐糸すると、身体を入れ替え調子を見るかのようにぶら下がり、また吐糸する。ところが、3度目にぶら下がると、気にいらないのか台座を放棄する(13:54)。

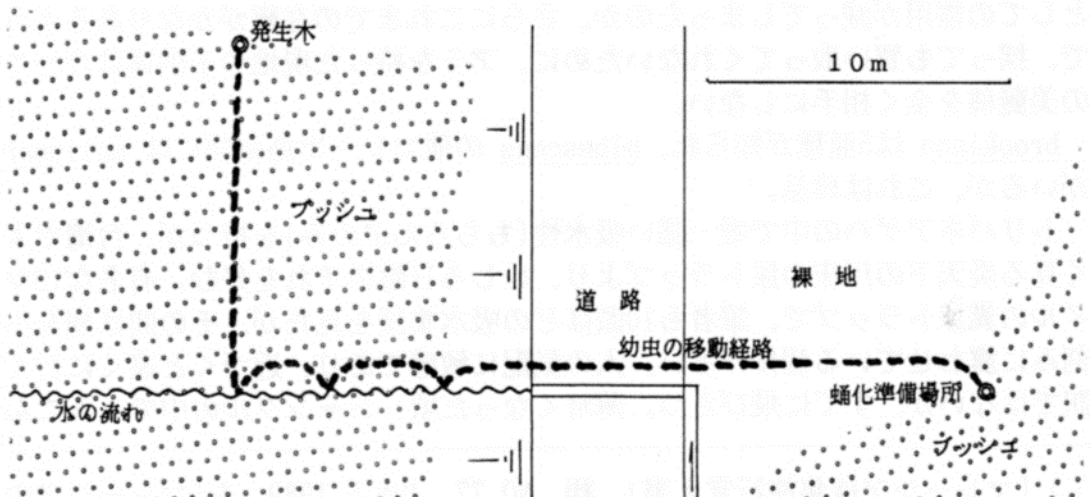
14:03 すぐ近くの別のススキの葉裏で再び台座を作り始める。高さはやはり1 m程。

15:05 台座は完成し、腹脚でぶら下がる。

15:40 動きだし、台座を補強する。

16:06 腹脚でぶら下がる。

16:30 調査終了



《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

マレーシアの蝶についての報告(Ⅱ):アゲハチョウ科(その1)

指 田 春 喜

筆者はこれまで二度(1988.12.24~1989.1.5および1989.8.9~1989.8.22)、マレー半島に蝶類の採集を行い、そのコース概略についてはすでに本誌に報告した。約670頭の採集品の展翅もほぼ終えたので、本稿ではそれらの整理をする意味で若干の生態的な覚書を添え、その解説を行いたい。

今回と次回は、そのうちアゲハチョウ科24種について報告するが、以後他の科についても整理がつき次第、本誌に報告する予定でいる。

また、フレーザス・ヒル在住の中国人、雲 昌鳳氏(Mr.Voon)所有の標本も若干検し得たので、これらについても併せて報告したい。

なお、本稿で使用した和名は基礎的に東南アジア島嶼の蝶、第1巻(塚田悦造・西山保典、プラパック)に従った。

《アゲハチョウ科 PAPIRIONIDAE》

1. アカエトリバネアゲハ *Trogonoptera brookiana albescens*

19 miles Cameron Highland Pahang	1988年12月26日	6♂(目撃)
19 miles Cameron Highland Pahang	1988年12月28日	4♂(目撃)
14 miles Cameron Highland Pahang	1989年8月10日	2♂(目撃)
19 miles Cameron Highland Pahang	1989年8月11日	5♂(目撃)
Fraser's Hill Pahang(雲 昌鳳氏所有)		1♀

マレー半島を代表するトリバネアゲハ、チョウであり、キャメロン・ハイランドでは、かなり普通に見られる。現地では「ラジャー・ブルーク」(マレー語で『ブルーク王』の意)と呼ばれ、その存在を誰もが知っている。ワシントン条約の対象であり、取り引きが禁止されるようになった現在、土産物、装飾用としての需用が減ってしまったのか、さらにこれまでの在庫がかなりあるようで、採っても買い取ってくれないために、アミを持った現地の子供達は今やこの美麗種を全く相手にしない。

brookiana は5亜種が知られ、*albescens* の他マレー半島南部には *mollumar* がいるが、これは珍品。

トリバネアゲハの中で唯一強い吸水性(もちろん♂のみ)を持つが、台湾でよく見る炎天下の川床の尿トラップより、むしろ日陰のそれを好む。有名な19マイルの糞尿トラップで、筆者も10頭ほどの吸水集団を見たが、その間は翅を小刻みに震わせている個体が多い。人の気配に敏感であり、近づくと遠くに行く訳ではないが、すぐに飛びたつ。薄暗くなった頃、ジャンクルの中で1人こん

1)「マレーシア採集旅行覚え書」、翔 NO.77, JUN.5.1989 を「マレーシアの蝶についての報告(Ⅰ)」とする。

な光景に接すると、その黒とグリーンの神秘的なコントラストの美しさは少し気味悪くすら感じられる。

♀は吸水性がないために目にふれることが少なく、以前は珍品であったが、風に乗って山頂に上がって来る個体をしばしば見かけ、キャメロン・ハイランドのグヌン・ブリンチャン、グヌン・ジャサルでこれを目撃している。

2. クネイフェラキシタアゲハ Troides cuneifera peninsulæ
Fraser's Hill Pahang(雲 昌鳳氏所有) 1 ♀

クサビモンキシタアゲハの和名で知られ、マレー半島にいる4種のキシタ(他はキシタ、アンフリサスキシタ、ヘレナキシタ)のうちでは圧倒的に少なく、山地性である。野外で目にする成虫はボロが多く、♀はさらに少なく珍品である。Mr.Voonの約50頭のキシタ(三角紙)の中で、クネイフェラはこれのみであった。

W.A.Fleming の Butterflies of West Malaysia and Singapore にも『Rare』(珍品)と記されている。

本種とアンフリサスの♀は酷似しており、三角紙標本での識別は以下によるのが確実。

- (1)クネイフェラでは胸部(翅の付け根)に赤毛を有し、アンフリサスではこれを欠く。
- (2)アンフリサスの後翅裏面中室基部は黄色、クネイフェラでは7室から黒条が太く入り込む。

3. ヘレナキシタアゲハ Troides helena cerberus

19 miles Cameron Highland Pahang	1988年12月28日	1 ♂ 1 ♀ (目撃)
10 miles Cameron Highland Pahang	1989年8月10日	1 ♀ (目撃)
19 miles Cameron Highland Pahang	1989年8月11日	1 ♀ (目撃)
10 miles Cameron Highland Pahang	1989年8月13日	1 ♂ 2 ♀ (目撃)
14 miles Cameron Highland Pahang	1989年8月13日	1 ♀ (目撃)
Fraser's Hill Pahang(雲 昌鳳氏所有)		2 ♂ 6 ♀

本種は17亜種に分けられ、低山地性の広域分布種であり、マレー半島でも最も個体数の多いキシタアゲハである。キャメロン・ハイランドでは、林縁のランタナなどの花で吸蜜中の個体を良く見かけた。

4. シコラックスアケボノアゲハ Atrophaneura sycorax egertoni
Fraser's Hill Pahang 1989年8月20日 1 ♀

頭部(アカエリトリバネのエリに相当する部分から上)に白色毛を有するためにオオハゲタカアゲハの和名で知られている。♀はトリバネアゲハを上回る大きさであり、まさに怪物である。sycorax は3亜種に分けられ、マレー半島か

らタイにかけては egertoni が分布するが、これだけ多くの採集者が入っているキャメロン・ハイランドにおいても本種を採集できた日本人は少ない。ボロの多いアケボノアゲハ類では完全品を野外で採集することは難しく、♀はさらに少なく珍品。標本商の在庫にはあるが、概して新鮮ではなく、大型種であるためか価格は高い。

フレーザス・ヒルの最頂部で、谷からフワァとわき上がったように、この大きな青白いのが見えたときは、パクついていたパンを放り出し、必死で追いかけた。本個体はほぼ完品の♀。

5. バルナアケボノアゲハ Atrophaneura varuna varuna
 19 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月11日 1♀
 Fraser's Hill Pahang 1989年8月21日 1♀

本種はインドからマレー半島にかけて分布。塚田大図鑑には守備範囲でないために載ってない。

キャメロン・ハイランドの採集品は19マイルポイントで、サカエ族の集落周辺から路上に出てきた個体を採集したものであり、♀前翅の白色部はかなり遠方からもよく目立つ。♂は無紋で漆黑。

6. ホソバジャコウアゲハ Losalia (Atrophaneura) coon doubledayi
 Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1988年12月31日 2♂
 Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 3♂

Doubledayi はマレーからミャンマー(ビルマ)、タイ、インドシナにかけて分布。本種は平地の蝶であり、キャメロン・ハイランドにはいない。よって標本商にはない。よって自分で採らなければならない。よって♀は採れず、♂のボロが多い。当然筆者も♀は採れなかった。

ランカウイ島での観察では、薄暗い二次林などの周辺を好む。主に夕刻に活動し、地上2~3mの高さをヒラヒラと直線的に飛ぶ。飛翔はゆっくりだが、人の気配には割りあい敏感であり、先回りして待ち伏せても、近くまで来るとクルッとそのコースを変えてしまう。

7. ネプトゥヌスホソバジャコウアゲハ Losalia (Atrophaneura) neptunus neptunus
 Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 1♀

後翅の赤紋によりベニモンホソバジャコウアゲハの和名が知られる。腹部前半分が黄色であるので、同定上問題はない。

低地の林に主に棲むため、キャメロン・ハイランドには少ない。標本商に在庫なし。ランカウイ島では前種と混飛していたが、本種の方がはるかに少ない。

8. ベニモンアゲハ Pachiopta aristolochiae asteris

Forest Park Teluk Bahang Penang Is. 1988年12月30日 2 ♀

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 1 ♀

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月10日 1 ♂

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年8月19日 1 ♀

20亜種に分けられ、八重山・台湾のものは別亜種 interpositus となる。本種は広く東南アジアに分布し、平地の草原に普通に産する。

9. デモリオンアゲハ Papilio demolion demolion

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月26日 1 ♂

Water Fall Fraser's Hill Pahang 1989年8月21日 1 ♂

珍品でもなく普通種であるが、本種は高所を俊敏に飛翔するため、吸水・吸蜜中以外は仲々採集できない。

10. ヘレヌスアゲハ Papilio helenus helenus

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月26日 1 ♂

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年8月11日 1 ♂

日本本土にも別亜種 nicconicolens が分布する本種は、モンキアゲハと言ってしまうまでもだが、本稿では和名を全て塚田図鑑に従ったので、本種も「ヘレヌスアゲハ」なる馴染みのない種名になってしまった。

海外での採集の折、別亜種が日本国内に分布する種はどうしてもその採集がおろそかになりがちで、いつもながらこの手の普通種の採集数が少ない。(反省！)

上段左より

シロラックス

アケボノアゲハ♀

ネプトゥス

ホソバジャコウアゲハ♀

バルナアケボノアゲハ♀

中段中央

ベニモンアゲハ♂

下段左より

ホソバジャコウアゲハ♀

デモリオンアゲハ♂

ヘレヌスアゲハ♂



《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

再開オサムシコーナー (1) 【セアカオサムシの越冬採集】

井村正行・中西重雄・野中 勝・野中 充

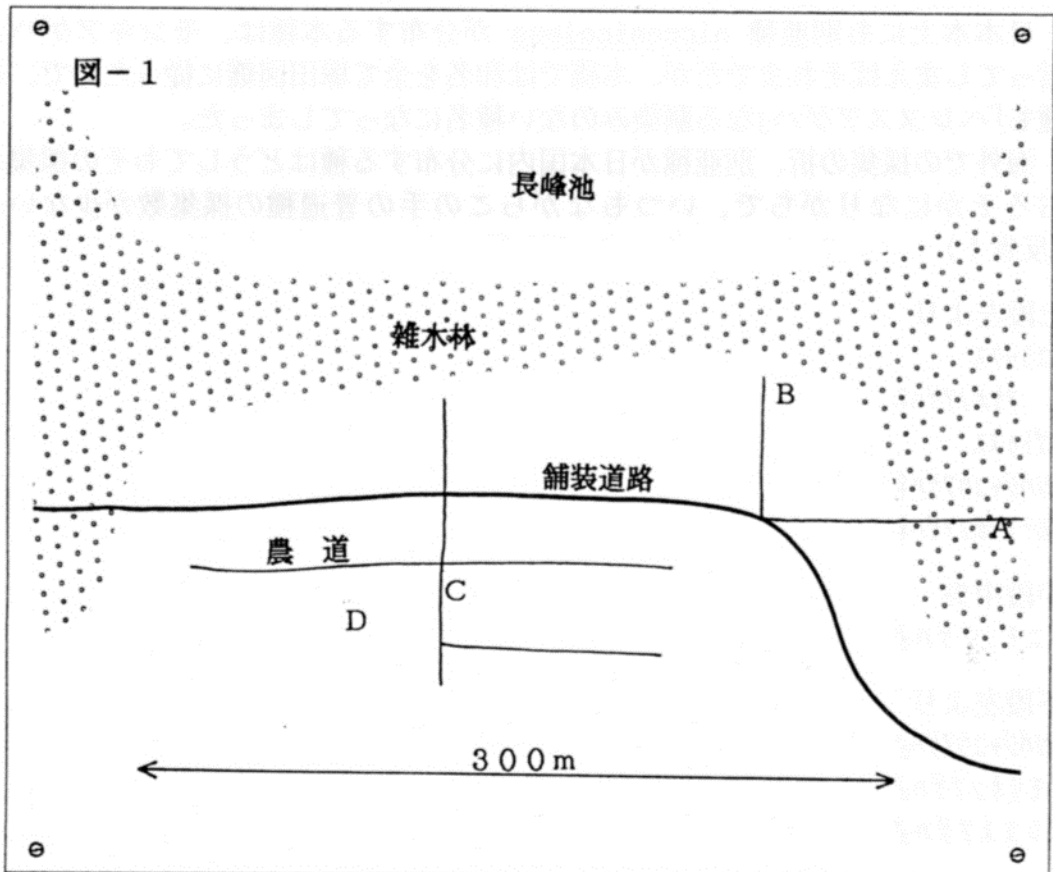
セアカオサムシ [*Hemicarabus tuberculatus* (DEJEAN et BOISDUVAL)]はオサ掘りでの採集が困難な種とされ、これまでに報告されている越冬採集例でも、1度に得られた数は1～2頭に限られている様である。¹⁾ 一方、トラップ採集では数十頭まとまって得られることがあり、越冬採集の困難さは個体数自体の少なさよりも、むしろ越冬場所の特殊さによるものと考えられていた。

今回、多数の越冬個体を、従来のオサ掘りの対象となる崖とはかなり異なる環境より採集し、この考えを支持する結果を得たので報告する。

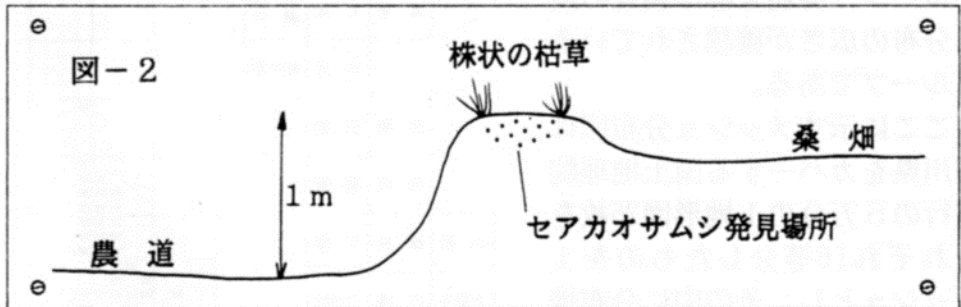
1990年1月14日 新潟県中頸城郡吉川町長峰 セアカオサムシ 33♂38♀

井村正行、中西重雄、野中 勝、野中 充採集

採集地は長峰池より一段高くなった台地状の地形で、主に桑畑よりなっていた。この内、図-1に示したA～Dの4地点で本種を採集することができた。



- A地点：雑木林の中を通る細い車道に沿った通常のおサ掘りの対象となりそうな崖。砂を含む黒土でサラサラしており、崖の肩にピッケルを入れたら本種が土と共に滑り落ちてきた。1頭のみ。以下に見る如く、セアカオサとしては例外的な越冬場所の様である。
- B地点：農道より20～30cm高くなった平坦な場所で、最近人手が加わっているのか、あまり草が生えていなかった。土質はかなり固めであり、採集した4頭はいずれも地下5cm程度の浅い所に入っていた。
- C地点：最も多く61頭得られた地点であり、断面図を図-2に示す。畑の縁の盛り上がった部分であり、まばらに株状の枯草が見られた。本種は盛り上がりの頂上の平坦部のみに見られ、斜面からは得られなかった。また、枯草の根際部分に多い印象を受けた。
- D地点：荒れ地に捨てたものか、高さ1m程度の盛り土が数個見られ、まばらに草が生えたその頂上部から5頭採集できた。



以上の例から本種の越冬場所を類推すると、①オープンな環境中に見られる、②盛り上がった部分の、③頂上部ということになりそうである。土質はある程度固い必要がある様で、草は密に生えていない方が良さそうであった。この越冬場所が全国的に共通のものであるかどうか興味を持たれる。また、文献1によれば、本種は発見された1～2年は多産しても、継続しないことが多いとされているが、この付近では1982年に富取 満氏が多数の個体をトラップで採集しており²⁾、10年近くにわたって継続して多産した可能性が強い。今後の動向が注目されるところである。

当日の調査では本種以外に3種のおサムシが掘り出され、その中にはとんでもない種が含まれていたが、それが何であるかは次回のお楽しみとしておこう。

文 献

1) 山谷文仁・他(1989)：東日本のおサムシ

2) 富 取 満(1983)：おサムシマップ 7

《いむら まさゆき 〒920⁰¹ 金沢市湊2-116-70》

《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

《のなか みつる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

石川県におけるウスバシロチョウの分布

松 井 正 人

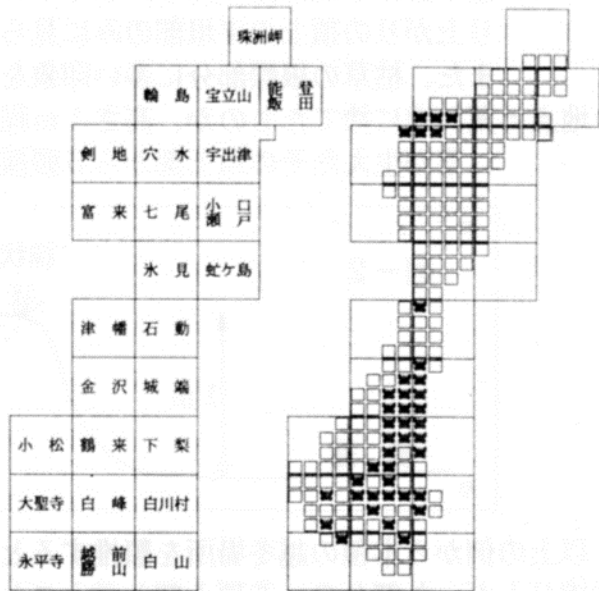
石川県におけるウスバシロチョウの分布は、1980年の嵯峨井¹⁾によってまとめられ、分布の北限は金沢市荒山とされていた。その後、1981年の天野²⁾によって奥能登での発生が報じられ、更には1987年になって、これまで疑問視されていた押水町での発生も確認され、現在のところ加賀、口能登、奥能登と3群の分布が確認されている。

加賀群は、福井県から富山県へと連なって分布する最も大きなグループ、口能登群は今のところ押水町宝達付近でしか確認されていない最も小さなグループ、奥能登群は調査の度に分布の広さが確認されているグループである。

ここに示すメッシュ分布図は、石川県をカバーする国土地理院発行の5万分の1地形図25枚をそれぞれ16等分したものを1メッシュとし、その中に分布地が一ヶ所でもあれば、『』として表した。

地形図名

ウスバシロチョウの分布



参考文献

- | | | | | |
|-------------|-----------|----------|---------|------|
| 1975年 6月 1日 | 輪島市 | 3♂採集多数目撃 | 天野勝広 | 1046 |
| 1989年 5月27日 | 輪島市空熊 | 1♂1頭目撃 | 松井正人 | 2078 |
| 1988年 5月28日 | 輪島市小 | 5♂採集数頭目撃 | 松井正人 | |
| 1988年 5月28日 | 輪島市上黒川 | 2♂採集1♂目撃 | 松井正人 | |
| 1989年 5月27日 | 輪島市大久保 | 12♂目撃 | 松井正人 | 2078 |
| 1989年 5月27日 | 輪島市滝又 | 3♂目撃 | 松井正人 | 2078 |
| 1988年 5月28日 | 輪島市男女滝 | 1♂ | 松井正人 | |
| 1989年 5月27日 | 門前町サビヤ山 | 5♂4頭目撃 | 松井正人 | 2078 |
| 1982年 5月14日 | 門前町猿山 | 5頭目撃 | 小牧 旌 | 1048 |
| 1981年 5月17日 | 門前町猿山自然歩道 | 1♂1頭目撃 | 竹谷宏二 | 1046 |
| 1983年 5月14日 | 門前町皆月 | 7頭採集33頭目 | 石田俊彦・他 | 9059 |
| 1988年 5月28日 | 門前町西丸山 | 5♂採集数頭目撃 | 松井正人 | |
| 1989年 5月27日 | 門前町滝又 | 1頭目撃 | 松井正人 | 2078 |
| 1982年 5月16日 | 門前町薄野 | 2頭目撃 | 嵯峨井淳郎・他 | 2032 |
| 1987年 5月 9日 | 押水町山崎 | 2♂ | 嵯峨井淳郎 | 2065 |
| 1987年 5月 9日 | 押水町上田 | 4♂ | 嵯峨井淳郎 | 2065 |
| 1965年 5月20日 | 押水町宝達 | | 砂山 博 | 1030 |
| 1987年 5月16日 | 津幡町材木橋 | 1♂ | 嵯峨井淳郎 | 2065 |
| 1989年 5月20日 | 津幡町舟尾 | 1♂採集2頭目撃 | 松井正人 | |

参考文献

1982年 5月18日	金沢市医王の里	1頭目撃	松井正人	
1970年 6月 7日	金沢市医王山	1♂	松井正人	2013
1986年 6月28日	金沢市医王山菱広峠	1頭目撃	松井正人	
1979年 5月19日	金沢市卯辰山墓地	1♀	金平永二	2013
1970年 5月23日	金沢市横谷	1♂	嵯峨井淳郎	2013
1989年 5月16日	金沢市下谷	1頭目撃	松井正人	
1978年 6月 日	金沢市角間	多数目撃	井村正行	2013
1978年 5月14日	金沢市額谷	1頭目撃	嵯峨井淳郎	2013
1989年 5月20日	金沢市宮野	1頭目撃	松井正人	
1987年 5月16日	金沢市曲子原	2♂ 2♀	松井正人	
1987年 5月16日	金沢市桐山川	6♂	嵯峨井淳郎	2065
1987年 5月16日	金沢市琴坂	1♀	嵯峨井淳郎	2065
1972年 5月23日	金沢市金谷	4♂	松井正人	2013
1970年 5月25日	金沢市熊走	1♂	嵯峨井淳郎	2013
1988年 5月25日	金沢市見上峠	3頭目撃	松井正人	
1975年 5月18日	金沢市戸室別所	1頭目撃	竹谷宏二	1040
1979年 5月19日	金沢市荒山	1頭目撃	野中 勝	2013
1971年 5月30日	金沢市国見山	数頭目撃	松井正人	
1989年 5月 8日	金沢市砂子坂	1頭目撃	松井正人	
1972年 5月28日	金沢市犀川ダム	15♂	松井正人	
1976年 5月29日	金沢市四十万	1♂	嵯峨井淳郎	2013
1984年 6月13日	金沢市芝原	数頭目撃	松井正人	
1978年 6月13日	金沢市小原	2♀目撃	松井正人	
1989年 5月16日	金沢市小平沢	1頭目撃	松井正人	
1987年 5月16日	金沢市松根	1♀	嵯峨井淳郎	2065
1987年 5月16日	金沢市上平	2♂	嵯峨井淳郎	2065
1956年 5月20日	金沢市新保	10頭	小山千蔭・他	1003
1979年 5月20日	金沢市倉ヶ岳	5♂	金平永二	2009
1971年 6月13日	金沢市倉谷	2頭	松井正人	
1969年 5月 5日	金沢市大桑	1♂	松井正人	2013
1972年 6月 2日	金沢市大平沢	1♀目撃	松井正人	
1987年 5月16日	金沢市滝下	2♂	嵯峨井淳郎	2065
1989年 5月16日	金沢市竹又	1頭目撃	松井泰子	
1987年 5月 日	金沢市中央公園	1頭目撃	野村 明	2065
1982年 5月22日	金沢市中山	3頭目撃	松井正人	
1988年 5月25日	金沢市中山峠	1頭目撃	松井正人	
1987年 5月16日	金沢市中尾	1♂	嵯峨井淳郎	2065
1989年 5月20日	金沢市釣部	5頭目撃	松井正人	
1980年 4月25日	金沢市天池	1幼目撃	諸道秀人	2015
1981年 5月21日	金沢市土清水	1頭目撃	松井正人	
1979年 5月20日	金沢市東	1頭目撃	松井正人	
1982年 5月18日	金沢市東原	3頭目撃	松井正人	
1980年 5月23日	金沢市東荒屋	9♂	吉村久貴	2017
1977年 5月13日	金沢市東市瀬	15♂ 2♀	嵯峨井淳郎	2013
1978年 5月13日	金沢市湯谷原	1♂ 1♀	野中 勝	2013
1971年 6月 5日	金沢市湯涌温泉	1♀	嵯峨井淳郎	2013
1981年 5月21日	金沢市湯涌荒屋	1頭目撃	松井正人	
1985年 5月 9日	金沢市堂	1頭目撃	松井正人	
1979年 5月20日	金沢市栃尾	3頭	吉村久貴	2013
1981年 6月 9日	金沢市二俣	1頭目撃	松井正人	

参考文献

1989年 6月12日	金沢市畠尾	1頭目撃	松井正人	
1982年 5月31日	金沢市菱池小原	1頭目撃	松井正人	
1989年 4月29日	金沢市俵	1頭目撃	井村正行	2077
1981年 5月21日	金沢市北袋	1頭目撃	松井正人	
1989年 5月20日	金沢市牧山	2頭目撃	松井正人	
1988年 5月21日	金沢市柚木	1頭目撃	松井正人	
1987年 5月 5日	鶴来町森林公園	多数目撃	松田俊郎	2064
1987年 4月19日	鶴来町日吉	1幼	松井正人	
1976年 5月10日	鶴来町八幡	1♂	嵯峨井淳郎	2013
1988年 5月14日	河内村吉岡	1頭目撃	松井正人	
1982年 5月 8日	河内村上福岡	16♂	岩下泰子	2031
1979年 5月20日	河内村板尾	1♂	吉村久貴	2017
1982年 5月 5日	河内村福岡	6♂	岩下泰子	
1963年 5月15日	鳥越村三坂	数頭	高木泰治	9045
1979年 6月 6日	鳥越村仏師ヶ野	1♀2頭目撃	松井正人	
1983年 6月 5日	吉野谷村スーパー林道	3頭目撃	松井正人	
1981年 5月31日	吉野谷村吉野	2♂	嵯峨井淳郎	2023
1976年 5月19日	吉野谷村市原	2♂	天野勝広	1046
1977年 6月28日	吉野谷村蛇谷	1♀	松井正人	
1980年 5月25日	吉野谷村中宮	2♂	吉村久貴	2017
1977年 6月 4日	吉野谷村中宮温泉	1頭目撃	松井正人	
1981年 5月31日	吉野谷村木滑	2♂	嵯峨井淳郎	2023
1984年 6月14日	吉野谷村雄谷	数頭目撃	松井正人	
1988年 6月11日	尾口村三又発電所	4頭目撃	松井正人	
1979年 6月 3日	尾口村新岩間	2♂1♀	松井正人	
1970年 6月10日	尾口村瀬戸	3頭	嵯峨井淳郎	2013
1983年 5月29日	尾口村鷺走ヶ岳	2♂	松井正人	
1987年 5月31日	白峰村下田原川	3頭目撃	松井正人	
1989年 6月 4日	白峰村市の瀬	1頭目撃	田中秀夫	
1979年 6月10日	白峰村白山釈迦道入口	1頭	井村正行	2006
1983年 6月19日	白峰村白山釈迦林道	1♀	野中 勝	
1989年 5月28日	白峰村白峰	2頭目撃	松井正人	
1984年 6月 2日	小松市杖川	1♂	松井正人	
1978年 5月21日	小松市西俣	1♀	中山佐一郎	9024
1980年 6月15日	小松市大杉奥	2♂1♀	中山佐一郎	9024
1964年 5月13日	小松市大杉本	数頭	岩田 健	9045
1978年 5月17日	小松市中峠	1♀	中山佐一郎	9024
1985年 6月 2日	山中町荒谷	1頭目撃	松井正人	
1989年 6月 4日	山中町真砂	1♀採集数頭目撃	松井正人	
1979年 5月19日	山中町生水	4♂	松井正人	2013

- 参 1)嵯峨井淳郎(1980) 翔(13):4~7
考 2)天野勝広(1981) とっくりばち(46):5~6
文 9024)中山佐一郎(1981) 小松市博物館研究紀要(18):1~26
9045)矢田新平(1964) 小松加賀江沼の蝶 VOL2
9059)北陸中日新聞(1983) 5月18日朝刊
献 1000~1099)石川むしの会の「とっくりばち」を示し、下2ケタは号数
2000~2099)百万石蝶談会の「翔」を示し、下2ケタは号数

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

前田家の財宝探しレース

蝶談会の百万石にちなんで、お遊びを企画してみた。名付けて前田家の財宝探しレース。要するに一部の蛾屋さん達がやっている「虫採り競争」の百万石版である。編集部が作成したリストに載っている虫を、加賀百万石の領土内とは言っても現在の石川県内で、決められた期間内（1年程度）に何種記録できるかというゲームである。1種記録する毎に1ポイントが与えられ、同じ虫を幾つ記録してもポイントは増えない。リストアップした虫は蝶・蛾・甲虫等の一部で、記録の少ない虫や一部地域にのみ見られる虫を選んだものであるが、その他石川県から未記録の虫には全て1ポイントが与えられる。

あくまでも個人としての力量比べであるから、誰かと一緒に採集に行ってもポイントになる虫がたくさんいる場所を見つけたとしても、間違っても教えてあげたりしてはならず、帰ってきてから見せびらかすなど、なるべく陰険にふるまうことが望まれる。今のところ賞品は用意されていないが、レースの展開次第では編集部が勝手に豪華賞品を付けるかもしれないから、手は抜かない方がよい。

冗談はさて置き、リストの中には特別保護地区内の虫もある訳で、当然ながら目撃記録も有効である。順調に行けば、以後の翔各号に中間経過を発表する予定で、今の虫に行き詰まっているあなたにとっては専門外に目を向けるチャンスでもあるのです。「くだらない」などと言わずに一人でも多くの人のご参加をお待ちします。

ポイントリスト

チョウ	20	ミスジチョウ	39	イボタガ
1 ジャコウアゲハ	21	ホシミスジ		クワガタ
2 キバネセセリ	22	シータテハ	40	ルリクワガタ
3 ホシチャバネセセリ	23	エルタテハ	41	コルリクワガタ
4 ヘリグロチャバネセセリ	24	クジャクチョウ	42	オニクワガタ
5 ヒメキマダラセセリ	25	コヒオドシ	43	ヒラタクワガタ
6 コキマダラセセリ	26	クロコムラサキ	44	ツヤハダクワガタ
7 チャバネセセリ	27	ベニヒカゲ		
8 ムラサキシジミ	28	クモマベニヒカゲ		
9 ムモンアカシジミ	29	ヒカゲチョウ		
10 カラスシジミ	30	アサギマダラ		
11 ミヤマシジミ	ガ			
12 ヒメシジミ	31	ムラサキシタバ		
13 アサマシジミ	32	オオシロシタバ		
14 ゴマシジミ	33	エゾベニシタバ		
15 クロシジミ	34	ナマリキシタバ		
16 スギタニルリシジミ	35	ミヤマキシタバ		
17 メスグロヒョウモン	36	クロウスタビガ		
18 ギンボシヒョウモン	37	エゾヨツメ		
19 オオミスジ	38	オオシモフリスズメ		

- オサムシ
 45 クロカタビロオサムシ
 46 アオカタビロオサムシ
 47 エゾカタビロオサムシ
 48 セアカオサムシ
 49 ハクサンクロナガオサムシ
 50 ホソヒメクロオサムシ
 カミキリ
 51 トラフホソバネカミキリ
 52 クロホソコバネカミキリ
 53 クビジロカミキリ
 54 ホソヒゲケブカカミキリ
 55 ヒトオビチビカミキリ
 56 トゲムネアラゲカミキリ
 57 トホシカミキリ
 58 ナカバヤシモモブトカミキリ
 59 ニセリンゴカミキリ
 60 ムネモンヒメハナカミキリ
 61 ヒラヤマコブハナカミキリ
 62 ベニバハナカミキリ
 63 ムモンベニカミキリ
 64 ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ
 65 クロツヤヒゲナガコバネカミキリ
 66 ゴイシモモブトカミキリ
 67 ムネモンヤツボシカミキリ
 68 ホソツツリンゴカミキリ
 69 ソボリンゴカミキリ
 70 タテジマカミキリ
 71 オオマルクビヒラタカミキリ
 72 ヤマトキモンハナカミキリ
 73 ヌバタマハナカミキリ
 74 キマダラヤマカミキリ
 75 キイロミヤマカミキリ
 76 ヨツボシカミキリ
 77 ニイジマトラカミキリ
 78 カッコウメダカカミキリ
 79 セミスジニセリンゴカミキリ
 80 ヒゲナガシラホシカミキリ
 81 ハスオビヒゲナガカミキリ
 82 クモノスモンサビカミキリ
 83 クリイロシラホシカミキリ
 84 キボシチビカミキリ
 85 ゴマフキマダラカミキリ
 86 クリチビカミキリ
 87 ブドウトラカミキリ
 88 クリサビカミキリ
 89 カッコウカミキリ
 90 ルリカミキリ
 91 ニセノコギリカミキリ
 92 ベーツヒラタカミキリ
 93 ハイイロハナカミキリ
 94 フタスジカタビロハナカミキリ
 95 ヘリウスハナカミキリ
 96 カエデノヘリグロハナカミキリ
 97 クモマハナカミキリ
 98 ニョウホウホソハナカミキリ
 99 オオバヤシヒメハナカミキリ
 100 ヨコモンヒメハナカミキリ
 101 イヨヒメハナカミキリ
 102 フイリヒメハナカミキリ
 103 トウキョウトラカミキリ
 104 トガリバアカネトラカミキリ
 105 キオビトラカミキリ
 106 クリストフコトラカミキリ
 107 ナカネアメイロカミキリ
 108 ジュウジクロカミキリ
 109 ヨコヤマヒゲナガカミキリ
 110 カラフトヒゲナガカミキリ
 111 マダラゴマフカミキリ
 112 アカハナカミキリ
 113 ヤマトヨスジハナカミキリ
 114 トラフカミキリ
 115 シラフヒゲナガカミキリ
 116 ヤツメカミキリ
 117 フタコブルリハナカミキリ
 その他
 118 オオチャイロハナムグリ
 119 オオセンチコガネ
 120 ジュウシチホシハナムグリ
 121 エサキキンヘリタマムシ
 122 マスダクロホシタマムシ
 123 オオキノコムシ
 124 オオヒョウタンゴミムシ
 125 オオユミアシゴミムシダマシ
 126 ヒサゴゴミムシダマシ
 127 イカリモンハンミョウ
 128 ルリヒラタムシ
 129 ヘグラシモフリヒラタコメツキ
 130 ゲンゴロウ
 131 タガメ

会員の動き・しゃばの動き

❶ 1月26日広坂「あまつぼ」にて新年会。年々盛り上がりを見せ、今年はなんと17人の参加があった。

❷ 2月4日松井、野中の2氏、数年ぶりの山スキーにもたつきながらも、ゼフを求めて医王山にアタック。今年のウスイロは豊産らしく、ここそこで卵塊を発見したが、半分程はフ化殻か寄生卵だった。

❸ セミが鳴くと耳鼻科がもうかる？ セミ時雨で耳が痛くなるといった単純なものではない。セミの騒ぐ夏は暑く、スギの成長も盛ん。となれば花粉もたくさん作られ春には大量にバラ撒かれる。そして花粉症が大発生する。どこかの先生がすでに因果関係を確認している。

❹ 田中氏、マイカーでの遠出採集にそなえ、軽四を普通車にパワーアップ。まずは、対馬を計画中とか。

❺ 2月17日野中氏、寒風の中、戸室辺りで幼虫採集。中々見つからないので、風邪をひいてしまったらしい。

❻ 3月4日ひとりのM氏と二人のN氏、戸室あたりで幼虫採集。最高の天気を丸一日つぶしたものの、採れたオオミスジはたったの2幼。あまりに情けないので名前は伏せておくことにした。

❼ 3月5日野中氏、末町に土地を購入。帰国以来捜し求めていた新居が見つからず、ついに自力構築に踏み切った。新居完成は今秋の見通し。

❽ 3月10日田中氏、夕日寺辺りでイボタとスゲの調査。さらには某種の千重咲もほんのすこし調査。

❶ 環境庁がまとめているレッドデータブックによると、ゴイシツバメとオオウラギンが絶滅の危機に、絶滅の危険が増大している蝶に、ギフ、ルーミス、ヒョウモンモ、タカネヒがあげられている。この動物版レッドデータブックは今冬にも書店に並ぶ見通し。(フィールド&ストリーム38号より)

❷ 3月10日金沢で1番ギフ発見さる。ポカポカ陽気に誘われ、午後から出かけた嵯峨井氏、窪の竹林で2頭を目撃。小松と辰口でも調査されたが、こちらはそろってボツ。

❸ 3月10日勝海氏、明栄さんとめでたく御結婚。さっそく網2本を携えて沖縄へ向かった。なお新居は、西金沢新町6番「シェモア西金沢」206号 ☎40-6339

❹ 3月11日1番ギフ採集さる。1番ギフ目撃の朗報に誘われ、指田氏は山科、松田氏は辰口、松井氏は小松へ出かけ、小松で1♂が採集された。

❺ 3月11日野中氏、1番ギフはどこ吹く風と、片山津あたりでのんびりオサ掘り。

❻ 3月11日澤田氏、今日は定休日と、自宅でゴロゴロ。はたまた吉村氏は、勢い余ってカゼでダウン。

❼ 静岡県引佐町のギフが採集禁止！ 3月7日より法的規制を受ける。

❽ 怒れる九万坊 新保、平栗、三小牛とギフの主要産地に次々とゴミ捨場ができていくが、ついに九万坊大権現にもゴミ捨場ができてしまった。それも九万坊出現地の裏山に。

●蝶談会の粹を結集して作られた「宝捜しレース」のポイントリストを見ると蝶談会の内部が見えてくる。県内の稀少種を集めたとされるリストには、トンボもいなけりゃハチもない。

●志賀むしの会の「Came虫」が「翔」に良く似ている。発行は偶数月で、年6回。さらにトップ記事は郷土の蝶で、外国採集記もあり、終わりに「会員の動き・しゃぼの動き」ならぬ「虫音マイク」がある。

●3月18日雨のため標本内見会。今回は澤田 博氏所蔵のチョウ、カミキリ等。いろいろ感想を書きたいが、遠慮があって書けません。

●3月21日松井、上田、野中の3氏、仲良く採集。小松辺りで、ギフ、ミスジ、オオムラ、ウラゴマ等を確認。

●3月21日陽気に誘われし指田氏、辰口辺りでギフチョウと戯れる。うららかな日差しの中、舞姫達の中に身を置けば、まさに夢心地。

目

●3月24日吉村氏、新車を購入。採集用のマークⅡは20万キロを目指していたものの、トラブルが絶えず、15万キロでダウン。新車はフェイサー。

例会の記録

2月2日、城南管工2Fにて午後8時より開催。今回より例会の案内が無くなったためか、参加者は少なかったものの、例のワイワイガヤガヤは12時を過ぎても続いた。主な話題としては、①翔販売の是非について、②各種イベントの開催について、③記録得点レースについて(別記)、であった。①については、今例会ではOKとなったが、より多くの意見を聞くため、さらに4月と6月の例会に計った上で決定することとなった。②については、6月の山菜テンプラ大会(中西)、8月のブナ林カラオケ大会(野中)、10月のキノコ汁大会(井村)が決まった。

参加は松井、指田、澤田、井村、中西、野中の6名。

次

松井正人：食樹を降り蛹化場所を決定するまでのキリタテハの行動	 1
指田春喜：マレーシアの蝶についての報告(Ⅱ)：アゲハチョウ(その1)	 3
井村正行・他3名：再開オサムシコーナー(1)【セアカササシの越冬場所】	 7
松井正人：石川県におけるウスバシロチョウの分布	 9
編集部：前田家の財宝捜しレース	 12
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	 14
編集部：例会の記録	 15

とぶ NO.83

1990年4月6日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所